

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年9月号)

2022/8/31

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## ◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは8月31日（水）9:00現在  
※休日の実績は前営業日

|            |                                    | 8月30日現在<br>(矢印は7月末比) | 9月の予想             |
|------------|------------------------------------|----------------------|-------------------|
| USD        | ドル・円 (円)                           | ↗ 138.32             | ↘ 129.00 ~ 141.00 |
|            | 9月FOMCの注目点は利上げ幅と2025年の金利見通し        |                      |                   |
| EUR        | ユーロ・ドル (ドル)                        | ↘ 1.003              | ↗ 0.95 ~ 1.15     |
|            | ユーロ・円 (円)                          | ↗ 138.76             | ↗ 130.00 ~ 150.00 |
|            | ユーロ圏経済の先行きは課題山積ながら現時点でのパリティ割れは時期尚早 |                      |                   |
| GBP        | ポンド・ドル (ドル)                        | ↘ 1.174              | ↗ 1.10 ~ 1.30     |
|            | ポンド・円 (円)                          | ↗ 162.38             | ↗ 150.00 ~ 170.00 |
|            | ユーロ圏同様に課題山積ながらUSD独歩高修正に見直し余地       |                      |                   |
| AUD<br>NZD | 豪ドル・円 (円)                          | ↗ 96.07              | ↗ 92.50 ~ 97.50   |
|            | NZドル・円 (円)                         | ↗ 85.55              | ↗ 83.00 ~ 87.00   |
|            | 利上げとコモディティ価格の支えで豪ドルとNZドルは対円で底堅く推移  |                      |                   |
| 株式<br>相場   | 日経平均 (円)                           | ↗ 28,196             | ↘ 27,000 ~ 30,000 |
|            | 海外市場の影響を受け軟調推移も、相対的には底堅い           |                      |                   |
|            | NYダウ (ドル)                          | ↘ 32,099             | ↘ 29,000 ~ 34,000 |
| 長期<br>金利   | 2023年の利下げ期待剥落が米株価の重石に              |                      |                   |
|            | 日本 (%)                             | ↗ 0.228              | ⇒ 0.15 ~ 0.25     |
|            | 日銀の政策変更の織り込みが進むのは2023年以降           |                      |                   |
|            | 米国 (%)                             | ↗ 3.058              | ↘ 2.90 ~ 3.40     |
|            | 中立金利を超える水準での大幅利上げは景気減速懸念を高める       |                      |                   |

## ◆ 今月の注目ポイント

### FOMC・ECBの利上げ幅に注目

| テーマ      | 注目度 | 今月の注目ポイント                                                                                                                       |
|----------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 金融<br>政策 | ◎   | 【FOMC】9/20-21のFOMCでは、①利上げ幅は0.5%か0.75%か、②ドットチャートと先行きの政策見通し、③バランスシート政策に関する議論等が注目される。9月上旬の雇用統計やCPIの結果はFOMCでの政策決定を見極めるうえで重要な指標となる。  |
|          |     | 【ECB理事会】インフレ抑制への強いコミットが示され、大幅な利上げが実施される見通し。ECB内も一枚岩とは言い難く、欧州景気への懸念も強い中でECB後にリスク回避的な動きが広がる可能性には留意。                               |
| 政治       | ◎   | 【英国保守党党首選】トラス外相がスナク前財務相をリードして終盤戦へ。トラス氏の景気刺激的な政策がもたらすインフレへの影響や金融政策に介入することで不透明感が高まる展開には留意。                                        |
|          |     | 【イタリア総選挙】右派「イタリアの同胞」が支持率でリードしており、連立による右派政権誕生が視野に入る。新政権が財政拡張的な政策を実施するとEUの求める財政規律を逸脱するリスクが生じる。EUとの関係悪化が意識されると政治・経済面でのリスクが浮上するだろう。 |

## ◆ アジア通貨見通し

|       |                 |       |                |
|-------|-----------------|-------|----------------|
| 人民元・円 | ↘ 18.50 ~ 20.50 | ルピー・円 | ↘ 1.68 ~ 1.76  |
| バーツ・円 | ↘ 3.50 ~ 3.80   | ウォン・円 | ↘ 9.60 ~ 10.45 |
| ルピア・円 | ↘ 0.900 ~ 0.950 |       |                |

## ◆ 今月の重要日程

|          |            |          |            |
|----------|------------|----------|------------|
| 2日(金) 米  | 8月雇用統計     | 16日(金) 中 | 8月生産・小売・投資 |
| 6日(火) 豪  | RBA理事会     | 20日(火) 日 | 8月CPI      |
| 8日(木) 欧  | ECB理事会     | 21日(水) 米 | FOMC<結果発表> |
| 13日(火) 米 | 8月CPI      | 22日(木) 日 | 日銀金融政策決定会合 |
| 15日(木) 英 | BOE金融政策委員会 | 30日(金) 中 | 9月PMI      |
| 15日(木) 米 | 8月小売売上高    | 30日(金) 欧 | 9月CPI      |

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

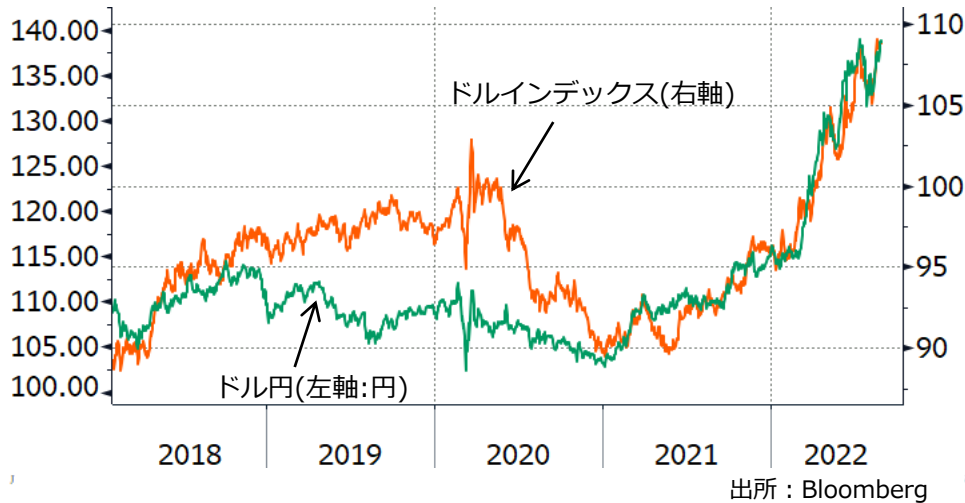


# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年9月号)

## ◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

### ドル 円



米ドル円



ドル円は下落

129.00 – 141.00円

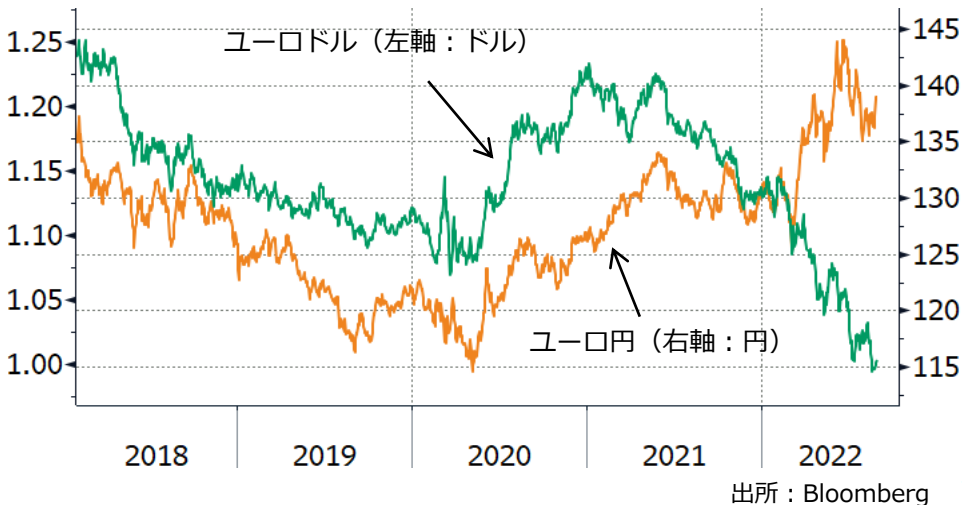
#### 中立金利を上回る超える水準での大幅利上げはUSDに重石

8月のドル円相場はペロシ米下院議長の訪台に伴うリスクオフムードのなか始まり、月初に一時130円台前半をつける場面があった。その後も米インフレ率のピークアウトの兆しが見えたことから上値の重い展開となったが、FRB高官の発言等からFRBがタカ派姿勢を継続すると思惑が高まり、米金利上昇と共に再び上昇基調となった。

注目されたジャクソンホール会合でのパウエル議長の講演は、過去の歴史的な事例を踏まえつつタカ派姿勢継続の重要性を説き、早期の利下げ転換を否定する内容であった。市場では来年初の早期利下げ織り込みが剥落し、米短期金利が長期に渡って高止まりすると思惑から長期金利も上昇。ドル円は一時139円をつける展開となった。

ジャクソンホール会合では、9月の利上げ幅への言及はなかったが、50～75bpの大幅利上げが継続するとみられ、政策委員の政策金利見通しであるドットチャートが上方修正される可能性もある。ただし中立金利を超える水準での大幅な利上げは米景気への懸念を一層高める結果となり、一本調子のUSD高とはなりにくい。また今回新たに示される2025年までの利上げ見通しも24年対比で引き下げ方向が見込まれ、USDに重石となろう。

### ユ ー ロ



ユーロドル



ユーロドルは上昇

0.95 – 1.15ドル

ユーロ円



ユーロ円は上昇

130.00 – 150.00円

#### ユーロ圏経済の先行きは課題山積ながら現時点でのパリティ割れは時期尚早

7月の為替市場は特に月後半からUSD独歩高の商場のなかEUR相場は対USDでは軟調に推移し、対JPYではもみ合いの展開となった。EUR/USDは再びパリティを割り込む場面もあった。

ECBの今後の利上げペースや利上げ到達点についてはFRB以上に市場の見方が分かれており、ECB内部でも意見の隔たりがあると思われる。エネルギー供給問題やイタリアの総選挙等、課題が山積している点もEURに重石となった。

ただし上記の懸念材料は概ね市場に織り込まれつつある。現状では欧州の景況感の悪化は限定的となっており、EUR/USDパリティ割れの水準はやや時期尚早。過度に悲観されている印象がある。物価が高止まりするなかでECBは利上げを継続していくと見られる。ECBの情報発信が安定し市場の不透明感が払拭されるにつれ、EUR相場は徐々に底入れし反発を見込む。

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

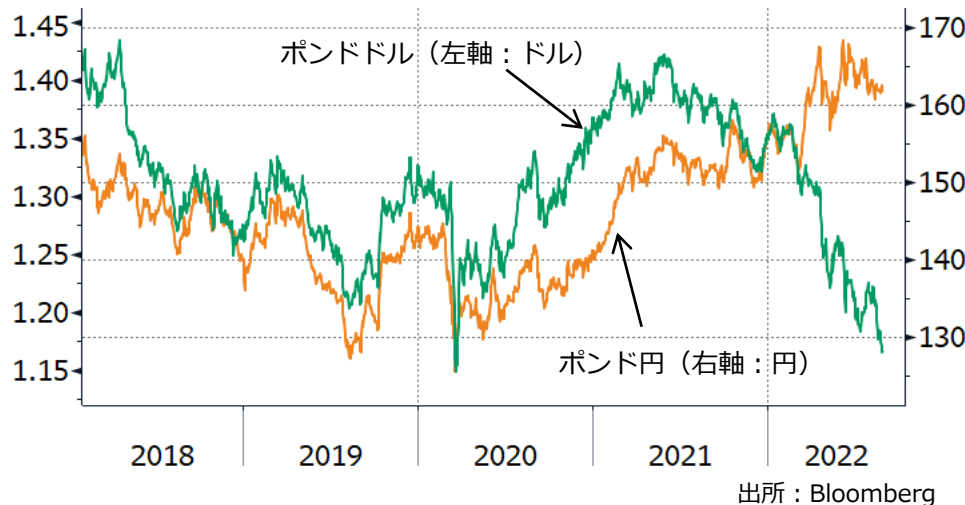


# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年9月号)

## ◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

### ポ ン ド



ポンドドル

ポンドドルは上昇

1.10- 1.30ドル

ポンド円

ポンド円は上昇

150.00 - 170.00円

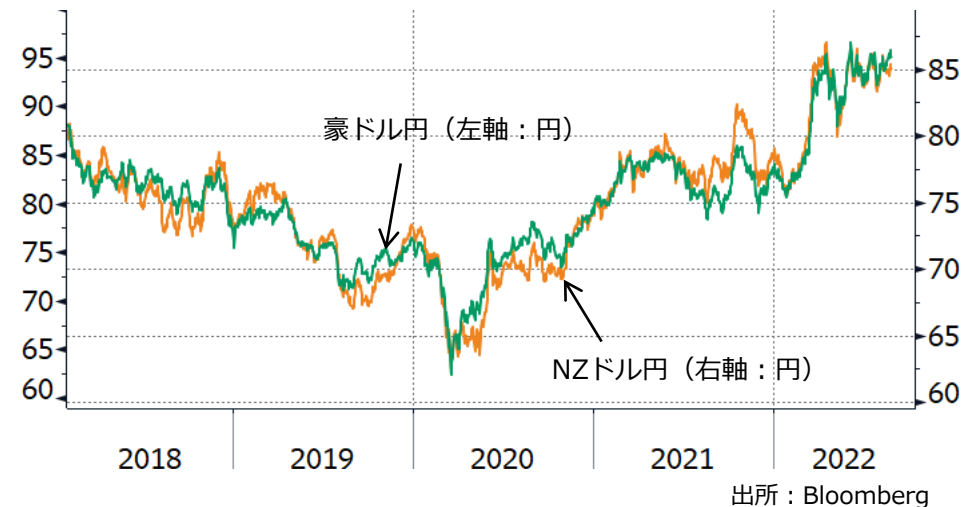
### ユーロ圏同様に課題山積ながらUSD独歩高修正に見直し余地

8月の為替相場はFRBのスタンス見極めとUSDの動向が最大の材料となり、USD以外の通貨のパフォーマンスに大きな違いが見られなかった。GBPについてもジャクソンホール会合への期待やその結果を受けたUSD高の影響により、月後半にかけて軟調な展開となった。

BOEは主要国では比較的早く、昨年末から15-25bpの小幅な利上げを続けてきたが、8月会合では今回の利上げ局面では初めてとなる50bpの利上げを行った。米国やカナダのインフレ上昇に一服感が見られる一方で、英国のインフレは加速しており主要国では最高水準となっている。

引き続きBOEはタカ派スタンスを継続し、利上げを進めると見られる。エネルギー問題や保守党党首選等、課題が山積する点はユーロ圏と同様だが、党首選については9月に一応の決着を見る。また英国のエネルギー自給率は欧州の中では高位であり、景況感も現状では大幅には悪化していない。むしろ景況感の落ち込みが顕著となっているのは米国であり、9月FOMCを通過すればUSD独歩高相場の見直し、ひいてはGBPに見直し買いが入るとみる。

### 豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円

豪ドル円は上昇

92.50 - 97.50円

NZドル円

NZドル円は上昇

83.00 - 87.00円

### 利上げ継続とコモディティ価格の支えで豪ドルとNZドルは対円で底堅く推移

8月の豪ドル、NZドルは対円で上昇した。豪中銀が月初の会合で金融政策の引き締めをトーンダウンさせたことで豪ドル円は下落した場面があったが、世界景気後退懸念の和らぎやコモディティ価格の上昇を受け、豪ドル円は上昇に転じた。金利差の拡大やNZ中銀のインフレ抑制優先姿勢からNZドルも対円で底堅く推移した。

9月の豪ドル、NZドルは引き続き対円で底堅く推移すると予想。世界景気の減速によってコモディティへの需要が鈍化しても、供給懸念が根強い中ではコモディティ価格は堅調に推移するとみられ、豪ドル、NZドルはその恩恵を受けやすいとみる。インフレ抑制優先で利上げを続ける豪中銀、NZ中銀と、金融緩和姿勢を維持する日銀との金融政策スタンスの違いも豪ドル、NZドルが対円で優位性を維持する要因とみる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。



◎注意事項をよくお読み下さい

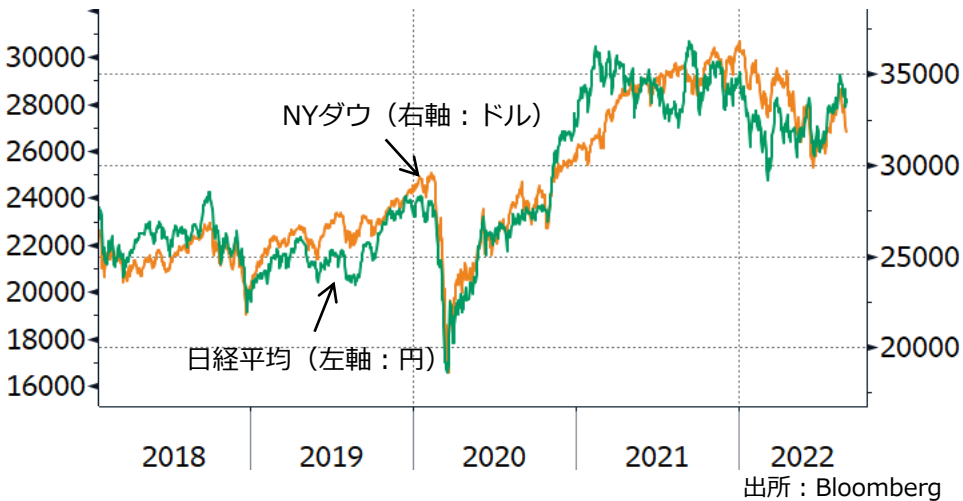


# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年9月号)

## ◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

### 株 式 見 通 し



日経平均



日経平均は下落

27,000 – 30,000円

#### 海外市場の影響を受け軟調推移も、相対的には底堅い

日経平均は一時29,000円台を回復する場面もあったが、海外市場の影響を受け反落。ただし利上げより景気減速が意識される欧米との比較では、相対的に日本経済は底堅い推移が見込まれ、海外市場対比で日本株のアウトパフォームが続いている。

軟調な海外株や中国の成長鈍化等を手掛かりに弱含み推移が予想されるが、日経平均はPER13倍前後の割安水準にあり、底割れする懸念は低いであろう。

NYダウ



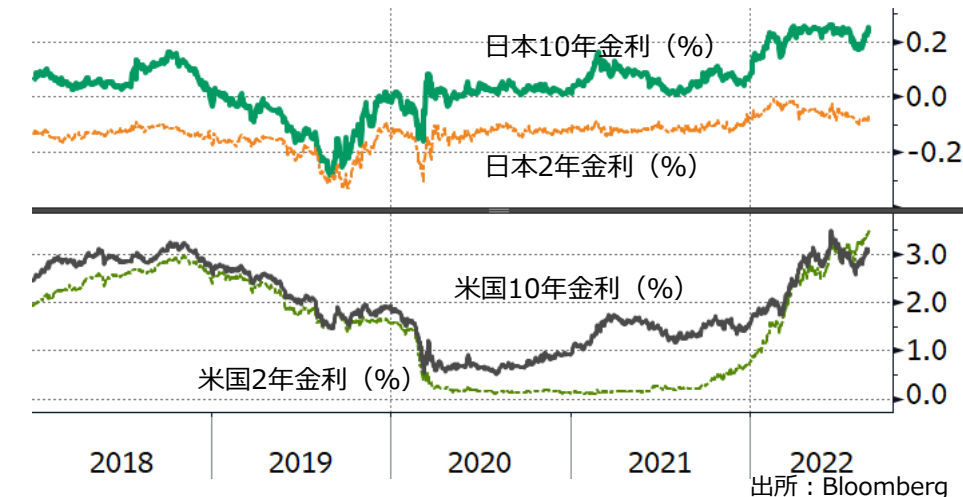
ダウは下落

29,000 – 34,000ドル

#### 2023年の利下げ期待剥落が米株の重石に

米国株は年初から6月にかけて約20%下落した後、半値戻しを達成したものの、FRBのタカ派姿勢継続を嫌気して再度軟化している。この間の変動要因は大方がバリュエーション (PER) による調整であるが、ファンダメンタルズ (EPS) も小幅に悪化し始めている点は見逃せない。FRBが中立金利を超える水準でもタカ派姿勢を鮮明とするなかで景況感は確実に悪化しており、企業業績が一段と悪化するリスクが意識されよう。

### 長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年



金利は横ばい

0.15 – 0.25%

#### 日銀の政策変更の織り込みが進むのは2023年以降

ジャクソンホール会合でFRBのパウエル議長がタカ派スタンスの継続を強調したのと対照的に、黒田日銀総裁は「緩和継続の選択肢しかない」と発言し、日米の政策スタンスの違いが改めて鮮明となった。引き続き黒田総裁の在任中の政策変更は可能性低く、円金利は海外動向の影響による小幅な動きに留まる。円金利に動きが出るのは次期総裁人事が固まる2023年以降。

米国債10年



金利は低下

2.90 – 3.40%

#### 中立金利を超える水準での大幅利上げは景気減速懸念を高める

ジャクソンホール会合でパウエル議長は早期のハト派転換を牽制。9月のFOMCでも従来通りのタカ派スタンスを継続する可能性が高まった。利上げ幅は50bpまたは75bpとなると同時に、政策金利見通しであるドットチャートも引き上げられる可能性がある。ただし、インフレが既にピークアウトの兆しがある中、大幅な利上げの継続は先行きの景気減速・景気後退懸念を一段と高める可能性があり、長期金利の上昇幅は限定的となる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2022年9月号)

## ◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

|        |          | 8/30   |   | 8月の相場推移       |   | 9月の予想         | 解説                                                                                                                                                                                         |
|--------|----------|--------|---|---------------|---|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中国     | 人民元/円    | 20.05  | ➡ | 19.21~20.10   | ➡ | 18.50~20.50   | コロナ感染の拡大や不動産市場の低迷を受け、PBOCは利下げを実施。中国と米国の金融政策スタンスの違いから7月ドル人民元は上昇した。コロナ感染状況が落ち着くまでには時間を要し今後も低調な経済環境が続きやすい。PBOCによる追加金融緩和観測が強まりやすい環境にある一方で、FRBがタカ派姿勢を強めており、金融政策スタンスの違いから9月のドル人民元も上昇を見込む。        |
|        | ドル/人民元   | 6.924  | ➡ | 6.716~6.933   | ➡ | 6.80~7.00     |                                                                                                                                                                                            |
| タイ     | バーツ/円    | 3.806  | ➡ | 3.615~3.839   | ➡ | 3.50~3.85     | ドルバーツ相場は米金利低下によるドル安の一方で、タイ中銀の利上げ開始がバーツに一定の支えとなり、8月半ばにかけて35バーツ台前半に下落。その後グローバル景気懸念やFRBのタカ派姿勢を受けたドル高で月末にかけて36バーツ台に値を戻した。各国でインフレ対応の引締めが行われる中で景気先行き懸念が強く、新興国に対するドル高地合い続きやすいで9月のバーツは下落を予想。       |
|        | ドル/バーツ   | 36.35  | ➡ | 35.16~36.77   | ➡ | 35.5~38.0     |                                                                                                                                                                                            |
| インドネシア | 100ルピア/円 | 0.935  | ➡ | 0.877~0.937   | ➡ | 0.900~0.950   | 堅調な貿易収支黒字やインドネシア中銀の予想外の利上げを受け、8月のドルルピアは下落(ルピア高)となった。今月はFRBのインフレ抑制最優先のスタンスによるグローバル景気への懸念が重石となりドルルピアは上昇(ルピア安)とみる。ただし、インドネシア中銀の姿勢がはっきりしない中でもインフレ圧力強まる中で追加利上げ期待は生じやすく、ルピアに一定の下支えとなり上値は限られるだろう。 |
|        | ドル/ルピア   | 14,843 | ➡ | 14,660~14,939 | ➡ | 14,700~15,000 |                                                                                                                                                                                            |
| インド    | ルピー/円    | 1.744  | ➡ | 1.650~1.744   | ➡ | 1.68~1.76     | 貿易赤字の拡大やFRBタカ派姿勢強化を受け、8月のドルルピーは上昇した。インド中銀は8月の会合で予想を上回る利上げを実施し、インフレ抑制重視の姿勢を示したが、足元コモディティ価格の反発から貿易赤字の縮小が見込めず、またコメの一部輸出制限の検討もネガティブ材料となり、今月もルピー安圧力が続きやすい。                                      |
|        | ドル/ルピー   | 79.46  | ➡ | 78.50~80.13   | ➡ | 78.00~80.50   |                                                                                                                                                                                            |
| 韓国     | 100ウォン/円 | 10.306 | ➡ | 9.98~10.43    | ➡ | 9.60~10.45    | ドルウォン相場は8月後半にかけてのドル高地合いで一時1,350ウォン台に上昇。韓国中銀は4会合連続での利上げを行い政策金利を2.50%としたものの、ウォン安圧力に歯止めがかからない状態が続く。尹政権の支持率低下のほか影響を受けやすい中国経済の先行き不透明感も強く、ウォン安転換もなかなか見込みづらい状態。ウォン相場は弱含みが続くとする。                   |
|        | ドル/ウォン   | 1,347  | ➡ | 1,296~1,351   | ➡ | 1,300~1,390   |                                                                                                                                                                                            |

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

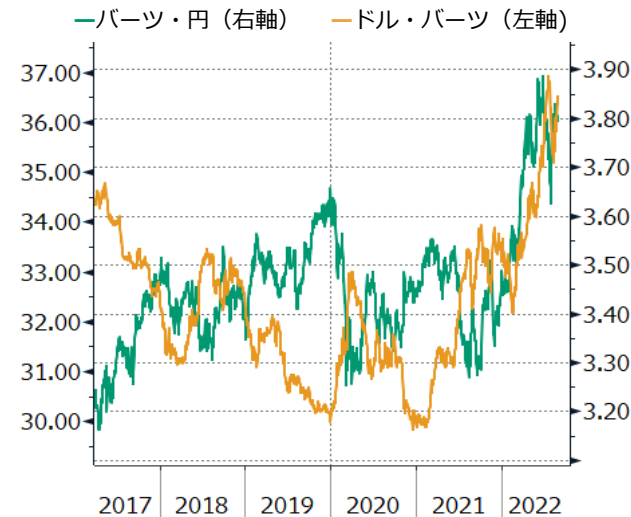
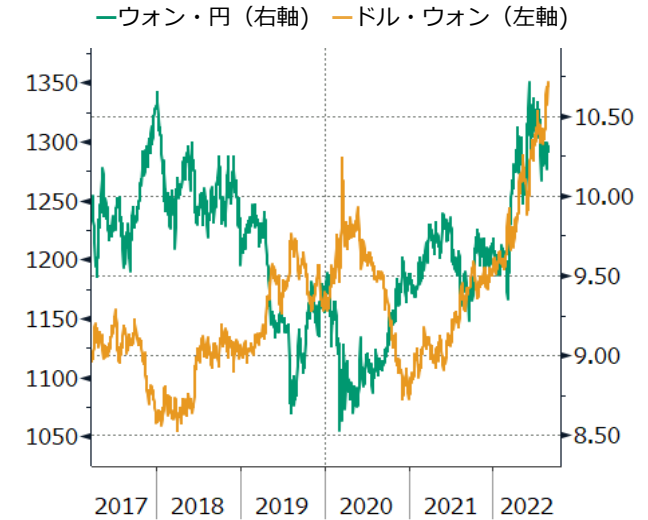
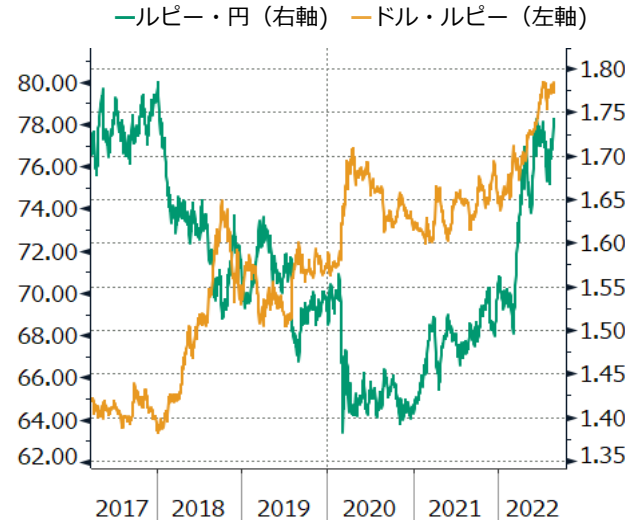
◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年9月号)

## ◆ 新興国通貨チャート



### ◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年9月号)

## ◆ 年間為替見通し

|        |     | 2022年     |           | 2023年     |           | ポイント                                                                                                                   |
|--------|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        |     | 9月        | 10～12月    | 1～3月      | 4～6月      |                                                                                                                        |
| ドル円    | レンジ | 129～141   | 120～135   | 115～130   | 110～125   | FRBの利上げペース減速を受け、年後半以降は景気減速と中間選挙の不透明感が上値抑える                                                                             |
|        | 期末値 | 132       | 130       | 125       | 120       |                                                                                                                        |
| ユーロドル  | レンジ | 0.95～1.15 | 0.95～1.20 | 0.95～1.15 | 0.90～1.10 | ECBがプラス金利へ向けた利上げを進めるなか利上げペース減速が見込まれるFRBとの金融政策較差によりEURに上昇余地。一方、来年以降は米国とともに景気減速が鮮明となり上値を抑えられる                            |
|        | 期末値 | 1.05      | 1.10      | 1.08      | 1.05      |                                                                                                                        |
| ユーロ円   | レンジ | 130～150   | 135～155   | 125～145   | 115～135   | BOEが緩やかな利上げを進めるなか、FRBの利上げペース減速を受け、USD独歩高の修正によりGBPに上昇圧力。一方英国の物価上昇率は先進国でも最高水準であり、景気後退リスクも同様に高い。インフレ抑制に成功できるかが年明け以降の懸念材料。 |
|        | 期末値 | 139       | 143       | 135       | 126       |                                                                                                                        |
| ポンドドル  | レンジ | 1.10～1.30 | 1.15～1.35 | 1.10～1.30 | 1.05～1.25 | 中国の経済減速懸念やPBOCの追加金融緩和観測からドル人民元上昇。来年からコロナ対策の修正による中国経済の回復やドル高一服でドル人民元は下落に転じる。                                            |
|        | 期末値 | 1.22      | 1.25      | 1.20      | 1.18      |                                                                                                                        |
| ポンド円   | レンジ | 150～170   | 155～175   | 140～160   | 135～155   | 豪州中銀の追加利上げが意識され、日銀との金融政策格差で上昇も年後半は徐々にピークアウト                                                                            |
|        | 期末値 | 161       | 163       | 150       | 142       |                                                                                                                        |
| ドル人民元  | レンジ | 6.80～7.00 | 6.90～7.20 | 6.80～7.10 | 6.70～7.00 | グローバル景気減速局面で年内バースは弱含みとみる一方、円安修正によりバース円は下落基調を予想                                                                         |
|        | 期末値 | 6.90      | 7.00      | 6.90      | 6.80      |                                                                                                                        |
| 人民元円   | レンジ | 18.5～20.5 | 17.0～19.0 | 16.0～19.0 | 16.5～18.5 |                                                                                                                        |
|        | 期末値 | 19.1      | 18.6      | 18.1      | 17.6      |                                                                                                                        |
| 豪ドル円   | レンジ | 92.5～97.5 | 92.0～98.0 | 85.0～95.0 | 80.0～92.0 |                                                                                                                        |
|        | 期末値 | 96.0      | 93.0      | 89.0      | 84.0      |                                                                                                                        |
| タイバーツ円 | レンジ | 3.50～3.85 | 3.25～3.75 | 3.15～3.70 | 3.10～3.60 |                                                                                                                        |
|        | 期末値 | 3.55      | 3.40      | 3.35      | 3.30      |                                                                                                                        |

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。



◎注意事項をよくお読み下さい



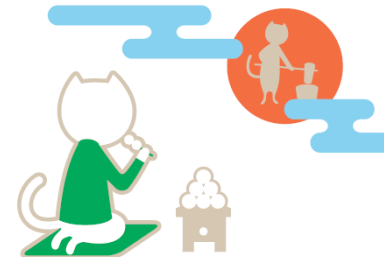
# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年9月号)

## ◆ マーケットカレンダー

|         | 日本                               | 米国                                              | その他                       |
|---------|----------------------------------|-------------------------------------------------|---------------------------|
| 9/1(木)  | 10年債入札<br>4-6月期法人企業統計調査          | 8月ISM製造業景況指数                                    | (中) 8月製造業PMI              |
| 9/2(金)  |                                  | 7月製造業受注<br>8月雇用統計                               |                           |
| 9/5(月)  |                                  | (労働感謝の日)                                        |                           |
| 9/6(火)  | 30年債入札<br>7月家計調査<br>7月毎月勤労統計(速報) | 8月ISM非製造業景況指数                                   | (豪) 準備銀行理事会<br>(中) 8月貿易統計 |
| 9/7(水)  |                                  | 7月貿易収支<br>米地区連銀経済報告                             |                           |
| 9/8(木)  | 4-6月期GDP(二次速報値)<br>8月景気ウォッチャー調査  |                                                 | (欧) ECB定例理事会              |
| 9/9(金)  |                                  |                                                 | (中) 8月CPI                 |
| 9/12(月) |                                  | 10年債入札<br>3年債入札                                 |                           |
| 9/13(火) | 5年債入札<br>8月企業物価指数                | 30年債入札<br>8月CPI                                 | (独) 9月ZEW景気指数             |
| 9/14(水) | 7月機械受注                           | 8月PPI                                           |                           |
| 9/15(木) | 20年債入札<br>8月貿易統計                 | 8月小売売上高<br>9月NY連銀製造業景気指数<br>9月フィラデルフィア連銀製造業景気指数 | (英) BOE金融政策委員会            |
| 9/16(金) |                                  |                                                 | (中) 8月生産・小売・投資            |

|         | 日本                             | 米国                              | その他                       |
|---------|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------|
| 9/19(月) | (敬老の日)                         |                                 |                           |
| 9/20(火) | 8月消費者物価指数                      | 20年債入札<br>8月住宅着工・許可件数           |                           |
| 9/21(水) |                                | 8月中古住宅販売<br>FOMC(結果発表)          |                           |
| 9/22(木) | 黒田日銀総裁定例会見<br>日銀金融政策決定会合(結果発表) |                                 |                           |
| 9/23(金) | (秋分の日)                         |                                 | (欧) 9月PMI(速報値)            |
| 9/26(月) |                                | 2年債入札                           | (独) 9月IFO企業景況感指数          |
| 9/27(火) | 40年債入札                         | 5年債入札<br>8月新築住宅販売<br>9月消費者信頼感指数 |                           |
| 9/28(水) | 日銀金融政策決定会合議事要旨<br>(7/20~21開催分) | 7年債入札                           |                           |
| 9/29(木) | 2年債入札                          | 4-6月期GDP(確定値)                   |                           |
| 9/30(金) | 8月鉱工業生産<br>8月住宅着工件数<br>8月労働力調査 | 8月個人所得・消費支出                     | (中) 9月PMI<br>(中) 9月製造業PMI |



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。



◎ 注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2022年9月号)

## 中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【7/29～8/4】

### ◎ 上海市民6割超が収入減少、都市封鎖で消費に慎重姿勢

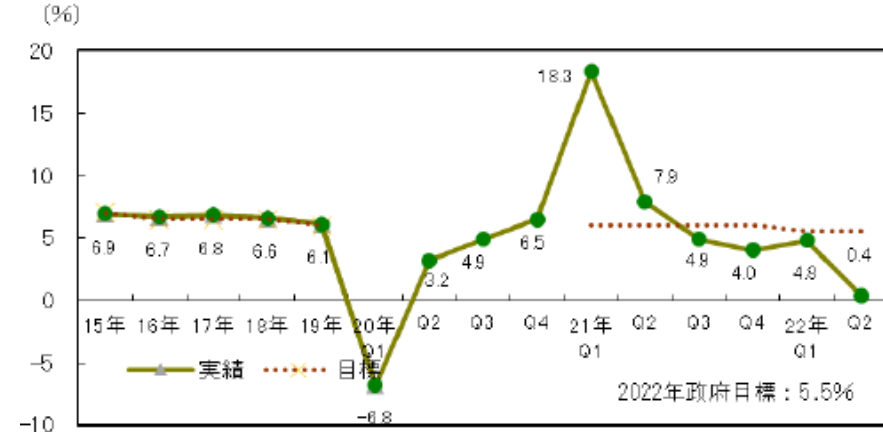
山田コンサルティンググループが上海市在住者を対象に6月に実施した調査によると、64.7%が「ロックダウン後の世帯月収（手取り）が減少した」と回答。減少率ごとの割合では「25%以下」が36.9%と最も多くなった。世帯月収が「ほとんど変わらない」は32.4%で、「増加」は2.9%であった。また、「ロックダウン後の月の支出が減少した」と答えた人の割合は41.9%となり、世帯月収の減少に加え、ロックダウン後も続いた行動制限、飲食店・サービス業などでの規制・制限措置が消費を抑えたと考えられる。

【8/5～8/11】

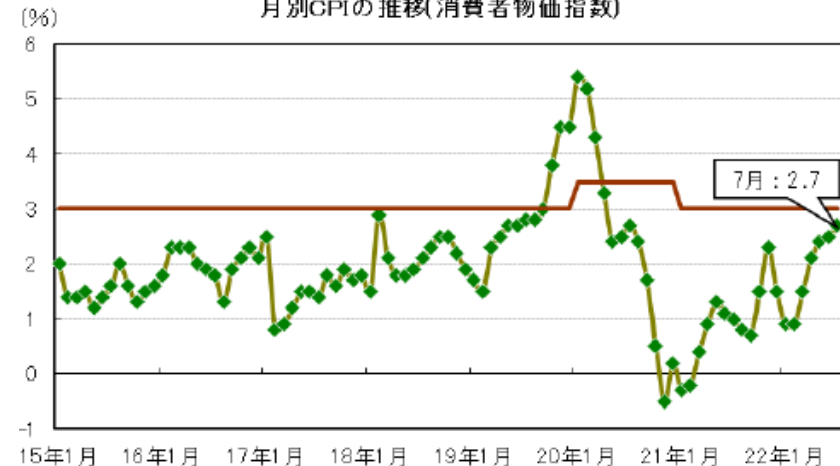
### ◎ 中国、7月の輸出18%増輸出の上向き継続

中国税関総署が7日に発表した2022年7月の貿易統計（速報値）によると、輸出は前年同月比18.0%増の3,329億6,430万米ドル（約44兆9,400億円）となった。伸び率は6月とほぼ同じで0.1ポイント拡大した。輸入もプラスを維持した。新型コロナウイルスの影響で停滞していた生産・営業活動の再開や一連の経済刺激策により回復基調を維持した。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年9月号)

## 中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【8/12～8/18】

### ◎ 中国コロナ散発で7月は経済の回復にブレーキをかける

中国国家统计局が15日発表した2022年7月の主要経済指標はおおむね伸び悩んだ。全国的には新型コロナウイルスの大規模な流行を防いだものの、各地小規模な感染拡大があったことが影響した。また7月から連続な高温や雨量の増加なども経済活動の遂行を難しくした。具体的には飲食業は5カ月連続でマイナス成長、小売売上高と鉱工業生産額は前年同月比の伸び幅が前月から鈍化。不動産開発投資も前年同期比6.4%減少。各企業も新型コロナによる打撃で、雇用増加の余裕がなく、若年層の失業率を高めている。

【8/19～8/25】

### ◎ ローンプライムレート（LPR）一年物を0.05%利下げ

中国人民銀行（中央銀行）は22日、金融機関の貸出金利の目安となるLPRの一年物を0.05%引き下げ、3.65%に設定した。利下げは今年1月以来7カ月ぶり。また住宅ローン金利の目安になる5年物以上は3カ月ぶりに引き下げ、4.3%とした。下げ幅は前回と同じ0.15%。利下げは中国経済の弱含みが背景にある。国家统计局が15日発表した22年7月の主要経済指標は概ね伸び悩んでおり、悪化した景気を利下げで下支えする。低迷した不動産市場に回復させ、経済全体の安定につなげるとの目的も考えられる。

## 主要経済指標

| 項目       | 単位     | 2021/9  | 2021/10 | 2021/11 | 2021/12 | 2022/1  | 2022/2  | 2022/3  | 2022/4  | 2022/5  | 2022/6  | 2022/7  |
|----------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 実質GDP成長率 | %      | 4.9     | -       | -       | 4.0     | -       | -       | 4.8     | -       | -       | 0.4     | -       |
| 消費者物価上昇率 | %      | 0.7     | 1.5     | 2.3     | 1.5     | 0.9     | 0.9     | 1.5     | 2.1     | 2.1     | 2.5     | 2.7     |
| 都市部調査失業率 | %      | 4.9     | 4.9     | 5.0     | 5.1     | 5.3     | 5.5     | 5.8     | 6.1     | 5.9     | 5.5     | 5.4     |
| 輸出額      | 10億ドル  | 305.3   | 299.6   | 324.8   | 340.2   | 326.8   | 217.0   | 275.5   | 272.8   | 306.8   | 330.8   | 333.0   |
| 輸入額      | 10億ドル  | 237.2   | 214.8   | 253.1   | 246.5   | 244.1   | 188.9   | 230.1   | 222.9   | 229.3   | 233.3   | 231.7   |
| 経常収支     | 100万ドル | 198,934 | -       | -       | 317,301 | -       | -       | 88,875  | -       | -       | 169,075 | -       |
| 外貨準備高    | 10億ドル  | 3,200.6 | 3,217.6 | 3,222.4 | 3,250.2 | 3,221.6 | 3,213.8 | 3,188.0 | 3,119.7 | 3,127.8 | 3,071.3 | 3,104.1 |
| 主要政策金利   | %      | 4.35    | 4.35    | 4.35    | 4.35    | 4.35    | 4.35    | 4.35    | 4.35    | 4.35    | 4.35    | 4.35    |
| 対ドル為替レート | 人民元    | 6.46    | 6.41    | 6.39    | 6.37    | 6.36    | 6.34    | 6.35    | 6.44    | 6.71    | 6.70    | 6.73    |

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年9月号)

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

## ○武漢と重慶で全無人自動運転の試行を開始

中国の検索エンジン大手、百度によると、武漢市経済技術開発区と重慶市永川区の特定区域で8日から、無人の自動運転タクシーサービスを提供する許可を取得したと発表しました。重慶市で今回スタートした全無人自動運転タクシーの運営エリアの面積は30平方キロメートル、営業車両は5台で、商業中心地、学校などをカバーします。武漢市での運営エリアの面積は13平方キロ、運営車両は5台で、地下鉄、住宅区などをカバーします。

価格につきましては、通常タクシーと同じぐらいの値段になります。現在のキャンペーン期間中では割引後、8分間の走行距離で2元でした。運営会社の責任者の話によると、車が突発状況に遭遇した場合、会社の遠隔運転手が即運転に介入し、代わりに運転することができます。

何よりも安全が一番大事ですので、安全運転管理体制など複数の措置で乗客の安全移動を全力で確保して欲しいですね。



## ○上海市中小学校及び保育施設は9月1日に再開決定

8月14日上海市は上海市教育委員会、市委員会、市政府の新型コロナウイルス感染防止に関する規定に基づき、9月1日の開校を正式に発表しました。

3月中旬以来、ロックダウンなどいろいろなコロナ感染防止制限策があったため、我が子にとって、半年ぶりの登校になります。通知によると、開校前の14日間上海から離れてはいけないうこと、また開校前の3日間に2回のPCR検査が必要で、開校後も毎日体温測定、24時間以内のPCR陰性報告が必要等色々厳しく制限措置が要求されますが、開校できるのは何よりです。

開校後、一年生になる予定の我が子の持ち物リストも学校より発表されました。ランドセルや鉛筆、名札、マスクなど準備が必要な物品が30種類もあります。でもこれから学校に戻ることを考えれば、親としては喜んで準備しようと思います。



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2022年9月号)

## タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ中央銀行が発表した2022年6月の経済報告によれば、タイ景気は前月に比べて改善した。新型コロナウイルス関連規制が緩和され、観光業や国内消費の回復が続いていることが要因。民間消費指数は前年同月比8.9%上昇した。旅行者の支出が17倍以上となったほか、サービスや半耐久財消費財、耐久財消費財、非耐久消費財はすべての項目で伸びた。民間投資指数は同2.6%上昇した。機械・設備を中心とした資本財の輸入及び建設資材の販売は上昇した。鉱工業生産指数は季節調整済で自動車、食品・飲料等が拡大したが、集積回路、半導体が減少した。

◆タイ商務省によると、2022年6月の輸出額は前年同月比11.9%増の265億5,310万米ドルと、16カ月連続で前年同月を上回った。2022年1～6月の輸出額は前年同期比12.7%増の1,491億8,480万米ドルだった。要因としては世界的な需要の回復に加え、パーツ安傾向等が挙げられた。農産物・加工品の輸出は前年同月比24.5%増、工業製品は同6.7%増加した。機械・同部品、鉄・鉄鋼製品、電子製品・同部品が2桁増となったが、自動車・同部品

品は減少した。国別では、米国向けの輸出額（前年同月比12.1%増）が依然として最大だった。インド（同77.7%増）、東南アジア諸国連合（同28.3%）は増加した。一方、日本（同1.0%減）、中国（同2.7%減）、ロシア（同46.8%減）はそれぞれ落ち込んだ。6月の輸入額は同24.5%増の280億8,230万米ドルで、貿易収支は15億2,920万米ドルの赤字となった。6月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル＝35.35パーツで、前月の34.22パーツからパーツ安となった。

◆タイ商務省が発表した7月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比7.61%上昇した。上昇幅は前月の7.66%からやや低下した。ウクライナ危機に伴うエネルギー価格の高騰で食品・非食品とも引き続き急騰した。食品・飲料が同8.02%、非食品が同7.35%とそれぞれ上昇した。2022年1～7月CPI平均値は前年同期比5.89%上昇。

## 主要経済指標

&lt;月次データ&gt;

| 項目       | 単位     | 2021/9 | 2021/10 | 2021/11 | 2021/12 | 2022/1 | 2022/2 | 2022/3 | 2022/4 | 2022/5 | 2022/6 | 2022/7 |
|----------|--------|--------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 実質GDP成長率 | %      | -0.2   | -       | -       | 1.8     | -      | -      | 2.3    | -      | -      | 2.5    | -      |
| 消費者物価上昇率 | %      | 1.7    | 2.4     | 2.7     | 2.2     | 3.2    | 5.3    | 5.7    | 4.7    | 7.1    | 7.7    | 7.6    |
| 失業率      | %      | 2.3    | 2.3     | 2.3     | 1.6     | 1.6    | 1.6    | 1.5    | 1.5    | 1.5    | 1.5    | -      |
| 輸出額      | 100万ドル | 23,109 | 22,776  | 23,723  | 25,419  | 21,259 | 23,483 | 28,860 | 23,521 | 25,509 | 26,553 | -      |
| 輸入額      | 100万ドル | 22,292 | 22,842  | 22,401  | 25,840  | 23,785 | 23,360 | 27,401 | 25,430 | 27,383 | -      | -      |
| 経常収支     | 100万ドル | -812   | -478    | 380     | -1,562  | -2,541 | -568   | 920    | -3,057 | -3,716 | -1,873 | -      |
| 外貨準備高    | 10億ドル  | 244.7  | 246.1   | 243.0   | 246.0   | 242.8  | 245.1  | 242.4  | 228.6  | 230.0  | 222.3  | 220.0  |
| 主要政策金利   | %      | 0.50   | 0.50    | 0.50    | 0.50    | 0.50   | 0.50   | 0.50   | 0.50   | 0.50   | 0.50   | 0.50   |
| 対ドル為替レート | パーツ    | 33.1   | 33.5    | 33.1    | 33.6    | 33.2   | 32.7   | 33.3   | 33.8   | 34.4   | 35.0   | 36.4   |

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

## ◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。



◎ 注意事項をよくお読み下さい



# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2022年9月号)

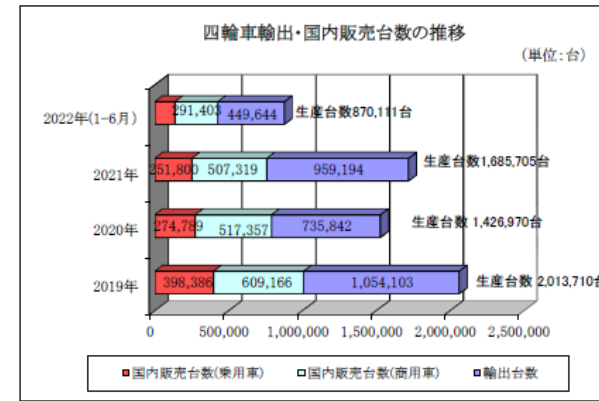
## タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

### タイにおける自動車産業の動向

出所: タイ工業連盟 (FTI)

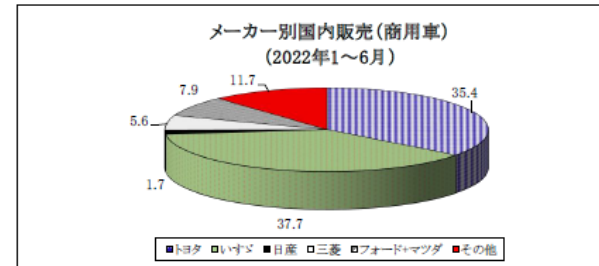
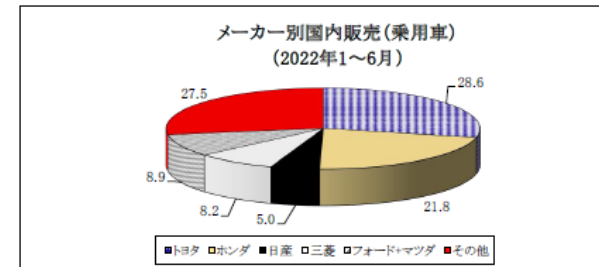
|      |                   |           | 2019年     | 2020年     | 2021年     | 2022年<br>(1-6月) | 前年同期比<br>(%) | 6月      |
|------|-------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------------|--------------|---------|
| 【台数】 |                   |           | (台)       |           |           |                 |              |         |
| 四輪   | 生産台数              | 乗用車       | 804,340   | 542,437   | 599,844   | 256,932         | 86.5         | 43,805  |
|      |                   | 商用車       | 1,209,370 | 884,533   | 1,085,861 | 613,179         | 112.0        | 99,211  |
|      |                   | 合計        | 2,013,710 | 1,426,970 | 1,685,705 | 870,111         | 103.0        | 143,016 |
|      | 国内販売台数            | 乗用車       | 398,386   | 274,789   | 251,800   | 135,900         | 112.9        | 19,598  |
|      |                   | 商用車       | 609,166   | 517,357   | 507,319   | 291,403         | 115.3        | 48,354  |
|      |                   | 合計        | 1,007,552 | 792,146   | 759,119   | 427,303         | 114.5        | 67,952  |
| 輸出台数 |                   | 1,054,103 | 735,842   | 959,194   | 449,644   | 95.0            | 73,887       |         |
| 二輪   | 生産台数              | 1,948,480 | 1,615,319 | 1,780,654 | 934,455   | 93.0            | 156,540      |         |
|      | 国内販売台数            | 1,718,587 | 1,516,096 | 1,606,481 | 906,625   | 103.9           | 174,281      |         |
|      | 輸出台数              |           | 948,839   | 727,152   | 965,967   | 501,453         | 102.9        | 79,268  |
|      | 【完成車輸出金額】 (百万バート) |           |           |           |           |                 |              |         |
| 四輪   |                   | 545,968   | 410,912   | 561,147   | 266,654   | 98.5            | 42,781       |         |
| 二輪   |                   | 69,933    | 85,802    | 75,985    | 33,986    | 81.4            | 5,140        |         |



### 【メーカー別国内販売台数】

出所: トヨタ自動車

|     |     | 2019年     | シェア<br>(%) | 2020年   | シェア<br>(%) | 2021年   | シェア<br>(%) | 2022年<br>(1-6月) | 前年同期比<br>(%) | シェア<br>(%) | 6月     |
|-----|-----|-----------|------------|---------|------------|---------|------------|-----------------|--------------|------------|--------|
| トヨタ | 乗用車 | 117,708   | 29.5       | 68,152  | 24.8       | 62,403  | 24.8       | 38,894          | 130.9        | 28.6       | 5,884  |
|     | 商用車 | 214,672   | 35.2       | 176,164 | 34.1       | 177,320 | 35.0       | 103,138         | 117.9        | 35.4       | 15,142 |
|     | 合計  | 332,380   | 33.0       | 244,316 | 30.8       | 239,723 | 31.6       | 142,032         | 121.2        | 33.2       | 21,026 |
| いすゞ | 乗用車 | 0         | 0.0        | 0       | 0.0        | 0       | 0.0        | 0               | 0.0          | 0.0        |        |
|     | 商用車 | 168,215   | 27.6       | 181,194 | 35.0       | 184,160 | 36.3       | 109,889         | 118.0        | 37.7       | 20,146 |
|     | 合計  | 168,215   | 16.7       | 181,194 | 22.9       | 184,160 | 24.3       | 109,889         | 118.0        | 25.7       | 20,146 |
| ホンダ | 乗用車 | 96,154    | 24.1       | 77,419  | 28.2       | 76,886  | 30.5       | 29,574          | 80.8         | 21.8       | 2,518  |
|     | 商用車 | 29,679    | 4.9        | 15,622  | 3.0        | 11,806  | 2.3        | 10,587          | 172.7        | 3.6        | 1,877  |
|     | 合計  | 125,833   | 12.5       | 93,041  | 11.7       | 88,692  | 11.7       | 40,161          | 94.0         | 9.4        | 4,395  |
| 日産  | 乗用車 | 35,809    | 9.0        | 27,120  | 9.9        | 19,790  | 7.9        | 6,812           | 60.3         | 5.0        | 968    |
|     | 商用車 | 28,605    | 4.7        | 17,438  | 3.4        | 9,906   | 2.0        | 4,955           | 104.7        | 1.7        | 520    |
|     | 合計  | 64,414    | 6.4        | 44,558  | 5.6        | 29,696  | 3.9        | 11,767          | 73.4         | 2.8        | 1,488  |
| 三菱  | 乗用車 | 38,879    | 9.8        | 22,363  | 8.1        | 18,456  | 7.3        | 11,182          | 124.8        | 8.2        | 2,068  |
|     | 商用車 | 49,365    | 8.1        | 35,046  | 6.8        | 28,732  | 5.7        | 16,292          | 111.8        | 5.6        | 2,747  |
|     | 合計  | 88,244    | 8.8        | 57,409  | 7.2        | 47,188  | 6.2        | 27,474          | 116.8        | 6.4        | 4,815  |
| その他 | 乗用車 | 109,836   | 27.6       | 79,735  | 29.0       | 74,265  | 29.5       | 49,438          | 146.2        | 36.4       | 8,160  |
|     | 商用車 | 118,630   | 19.5       | 91,893  | 17.7       | 95,395  | 18.7       | 46,542          | 99.5         | 16.0       | 7,922  |
|     | 合計  | 228,466   | 22.7       | 171,628 | 21.8       | 169,660 | 22.3       | 95,980          | 119.1        | 22.5       | 16,082 |
| 合計  | 乗用車 | 398,386   | 100.0      | 274,789 | 100.0      | 251,800 | 100.0      | 135,900         | 112.9        | 100.0      | 19,598 |
|     | 商用車 | 609,166   | 100.0      | 517,357 | 100.0      | 507,319 | 100.0      | 291,403         | 115.3        | 100.0      | 48,354 |
|     | 合計  | 1,007,552 | 100.0      | 792,146 | 100.0      | 759,119 | 100.0      | 427,303         | 114.5        | 100.0      | 67,952 |



### ◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。